

「北海道一周鉄道旅行 (11)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

札幌市時計台は、過去に何度か画にしています。一番雰囲気が良いのは、やはり雪の季節でしょう。この時は時計台の真向かいにカフェがあってそこで描けたのですが、この日は確かめられませんでした。



「雪の時計台」(画 ; C.Tanaka)

てから改札・ホームまで結構あります。でもちょっと「強歩」っぽく歩いたら、予定よりも2本も早い「特急ライラック号」に乗れました。札幌と旭川を俊足で結んでいる、北海道では珍しい「電車特急」です。



函館本線の車窓は北海道らしい広々とした風景です。しかし、途中でこの特急は徐行運転になり、最後には駅でもないところで停まってしまいました。



原因は「鹿」でした。北海道の鉄道は、とにかく鹿との衝突が多いのです。この時実際に鹿と衝突したのは、私が乗った特急ではなく、別方面の普通列車でした。運転士さんが線路に降りて、安全を確認していた影響で、こちらの特急にも遅れが出たのです。



時計台から札幌駅まではすぐなのですが、駅に入っ



本来乗るはずの予定の特急よりも2本早かったの
で、私は「岩見沢駅」で途中下車しました。約10分
遅れの到着でした。



岩見沢駅は広大なヤード(留置線)を持っています。
かつては蒸気機関車の機関庫や整備場、それに鉄道員
の官舎もあり、道央随一の鉄道城下町でした。今は何
もなくなりましたが、留置線だけが残っているのです。

岩見沢市は、道央札幌市の北東に位置します。特に
目立った観光資源もなく、旅行でわざわざ行くような
土地でもありません。私がこの土地に興味を持ったの
は、鉄道城下町であること、かつて周辺に多くの炭鉱
があったこと、そして知人が岩見沢出身で、戦後すぐ
のことをよく知っていたからです。



(昭和41年の岩見沢駅入場券)

このあたりには「砂川---オタ・ウシ・ナイ=ウタシ
ナイ(砂浜・についている・川)」「滝川---ソラチベ
ツ=ソラチベツ(滝のある川)」など、「アイヌ語地名
を和訳した地名」が散在しています。岩見沢もアイヌ
語地名の和訳に見えますが、実はちがいます。開拓者
の休息所「浴(ゆあみ)」にちなみ、「浴澤(ゆあみさ
わ)」という地名が生まれ、「岩見澤」に転じたものだ
そうです。アイヌ語音の充漢字地名や、アイヌ語の和
訳地名ではなく、日本語由来の都市名は、北海道では
大変珍しい例と言えます。

岩見沢は戦前から鉄道の要衝で「鉄道城下町」の一
つでした。現在の地図を見ると、札幌方面からの「函

館本線」と苫小牧方面からの「室蘭本線」が岩見沢で
合流しています。



(国土地理院)

苫小牧方面からの列車は、札幌を経由するよりも、
室蘭本線経由のほうが距離的には近いのですが、現在
は直通列車も特急も走っていません。今は非電化のロ
ーカル線に過ぎないのです。しかし、過去の室蘭本線
は、岩見沢周辺の炭鉱で産出した大量の石炭を苫小牧
や室蘭に運ぶ、貨物の大動脈でした。



(国土地理院)

写真は戦後1948年撮影の、岩見沢市の航空写真で
す。北海道のほかの都市と同じで、縦横に規則正しい
道路で区割りされています。ただし、道は東-西・南-
北にはなっておらず、およそ北西-南東・北東-南西に
通っている点が面白いです。これは函館本線の線路が
その方向に敷かれていたからで、それに平行に街が発
達したのでしょう。